

明海大学 不動産学部

不動産の不思議

第19回

学生たちの視点と発見

【学生の目】

地方から大学に進学し、浦安市に住んで4年になる。郷里では山が街を取り囲み、自然の緑とともに暮らしていた。東京湾を埋め立てて造られた浦安市では、快晴の日に遠く富士山や丹沢の山々のシルエット

を望む程度で、日常生活で山や山の緑を感じることはない。市域の7割以上を占める埋め立て地で、緑被面積ゼロからスタートした浦安市だが、住んでみると以外と緑が多いと感じる。なぜだろう。

浦安市は05年から「浦安市緑の基

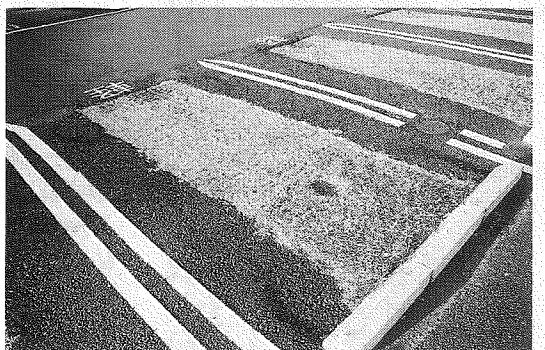


西浦 巨太
不動産学部4年

都市の豊かさ示す緑

本計画」として、都市緑地法第4条第1項の規定に基づき都市緑化の保全や推進を行ってきた。街を歩けば道路沿いには花や木々が生い茂り、私に通っている明海大学も周囲が木々に囲まれ、自然に包まれている印象を受ける。市内に17カ所の大型公園があり、遊び回る子どもたちや散歩を楽しむ人々が緑の恩恵を受けている。また、市は住宅の生垣の設置に対し、緑あふれる街を目指す助成

業施設「ライフガーデン新浦安」の駐車場の緑化(写真)はその例だ。駐車場の緑化は環境面だけではなく、景観面や経済面でも役割を果たす。ヒートアイランド現象の抑制、車内温度の低下に効果があるからだ。アスファルト舗装の駐車場に魅力を感じる人は少ないが、緑があることで印象は随分と変わる。消費者としてこのような商業施設を応援したい。



スペース中央部に芝生を植えた駐車場

緑被率導入して誘導を

金制度を設けるなど、緑が増える仕組みを設けて緑被面積の向上に努めている。

私が浦安で緑を感じるのは公園や

沿道の木々だけではない。商業施設の緑化駐車場や浦安駅の壁面緑化などの小さな緑から大きな印象を受ける。緑と無縁と思われる部分にあることで緑を強く感じ、自然と共生する街と認識しているように思う。商

自治体によっては駐車場の緑地を工場立地法や都市緑地法上の緑地面積として算入することができ

避と思われる。その指標として緑被率を導入し、緑化を誘導することを提案したい。

【教員のコメント】

日本は自然の方が強く緑に恵まれる半面、緑の貴重さを認識しにくい側面がある。街づくりの基幹法である建築基準法には空地を確保する建ぺい率の規定はあるが、緑の規定は皆無である。民法の枝の越境に関する規定は古典的で、都市の価値が緑被状態に大きく関係する現状、特別法に緑被率の規定があってもよい。

総合・政策